

オクラ栽培情報

平成 27 年 6 月 3 日
北越後農業協同組合
青果物集出荷センター

☆今年の生育状況(6月2日現在)

「ハウス栽培」

- 3月下旬～5月下旬の播種。水稻育苗後の作付は、移植栽培を中心に定植 20 日前頃から播種をはじめ。直播、移植栽培ともに播種後の生育はおおむね順調に推移しているが、入り口や脇付近には害虫被害が見られている。被害の程度が大きい場合は速やかに薬剤散布を実施しましょう。ハウスオクラの初出荷は、6月2日より開始された。

「露地栽培」

- 5月中旬～現在まで播種。とくに雨予報前の5月17日頃の直播が多いが、その後晴天が続く圃場が乾燥気味である。過乾燥の圃場は、一部発芽不良や葉ヤケが見受けられる。これからの時期はアブラムシの発生が懸念されるので、発生前防除を徹底しましょう。



☆今後の管理について

- 晴天が続いて圃場が乾燥しています。発芽初期まではこまめにかん水を実施し、発芽不良の防止につとめましょう。天候によっては、生育期間中も圃場が過乾燥にならないように定期的なかん水を実施しましょう。
- 発芽不良や葉ヤケが発生した箇所は、種の蒔き直しや苗の補植、マルチ穴のふさぎ等を速やかに実施しましょう。
- 今後、生育が進むにつれ病害虫の発生が懸念されます。下記を参考に薬剤防除を実施しましょう。

◎アブラムシ類:暑さが続くと害虫の発生が増えますので、予防的防除からしっかりと実施しましょう。

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	備考
スタークル粒剤	3g/1穴	収穫 14 日前	1 回	本葉 1～2 枚までに株元に散布しましょう。
オルトラン水和剤	1000 倍	収穫開始 7 日前	1 回	開花したら使用しないようにしましょう。
アドマイヤーフロアブル	4000 倍	収穫前日	3 回	
モスピラン水溶剤	4000 倍	収穫前日	3 回	

※アブラムシは、残効性の高いスタークル粒剤→オルトラン水和剤(収穫開始 7 日前まで)の体系処理できっちり防ぎましょう。

◎その他病害虫:生育初期はネキリムシによる食害が発生しやすいので注意しましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数	備考
ネキリムシ	ガードバイト A	1g/1穴	生育初期まで	3回	発生初期に株元散布。
ワタノメイガ	アファーム乳剤	2000 倍	収穫前日	2 回	オオタバコガにも効果あり。
葉すす病	トップジン M 水和剤	1500 倍	収穫前日	3 回	
うどんこ病	アミスター-20フロアブル	2000 倍	収穫前日	2 回	高温時の散布は、薬害注意。

◎除草:株元は手による除草を実施し、通路はクワまたは薬剤散布を使用回数以内で実施しましょう。

区分	適用雑草名	薬剤名	使用時期	10a 当使用量 (希釈数量)	使用回数
除草剤	畑地 1 年生雑草	バスタ液剤	雑草生育期(収穫前日)	300～500ml(100～150ℓ)	3 回

☞生育診断や農薬の使用についての相談は、青果物集出荷センター担当：渋谷・太田(☎41-0770)または各ふれあい営業所へご連絡下さい。